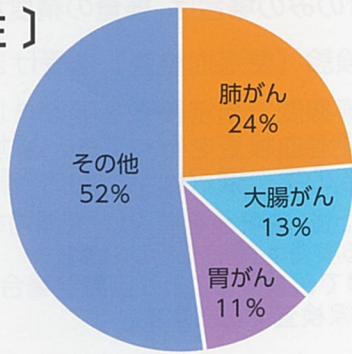


がん検診を受けるあなたへ

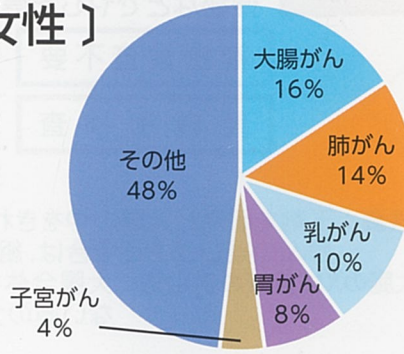


ご存じですか？我が国のがん死亡の状況（部位別がんの死亡割合 2024 年）

〔男性〕



〔女性〕



参考：厚生労働省「2024年人口動態統計（確定数）」

胃がん検診

胃がん検診は死亡率減少効果が認められています。早期発見・早期治療で胃がんは治ります。

胃エックス線検査

胃内視鏡検査

どちらかの検査を受けます



検査後

約1か月後

精密検査不要

次回の検診を受けましょう

要精密検査

必ず医療機関で精密検査を受けてください

- ・ エックス線検査の精密検査としては、細い管を口または鼻から挿入して直接胃の内側を観察する内視鏡検査を行います。
- ・ 胃内視鏡検査の精密検査では一部組織を採取する検査（生検）を行います。

胸部レントゲン（肺がん）検診

胸部エックス線撮影を行う胸の検診では、肺がんおよび結核等の病気を探します。この検査で肺がんの死亡率減少効果が認められています。

胸部エックス線検査

肺全体のエックス線検査です

検査後

精密検査不要

翌年の検診（胸部エックス線検査）を受けましょう

要精密検査

必ず医療機関で精密検査を受けてください

- ・ CT検査：エックス線の管球を回転させ、その間を受診者が乗った台が移動して撮影し、コンピューターで画像を解析します。
- ・ 気管支鏡（内視鏡）検査：必要に応じて気管支鏡検査を行います。気管支鏡検査はのどに麻酔をして気管支鏡を挿入し、気管・気管支の状態を観察します。病変があれば細胞や組織を採取して詳細な検査を行います。



喫煙者は非喫煙者と比べて男性で約4倍、女性では約3倍肺がんになりやすく、喫煙を始めた年齢が若く、喫煙量が多いほどそのリスクが高くなります。受動喫煙（周囲に流れるたばこの煙を吸うこと）も肺がんのリスクを2～3割程高めます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

Q. 気になること（胃の痛み、血痰、血便がある、胸にしこりを感じたなど）があるので検診でがんかどうかを確認できますか。

A. 自覚症状がある場合は検診ではなく、医療機関を受診してください。

大腸がん検診

大腸がんは便の検査により早期発見ができ、この検査で大腸がんの死亡率減少効果が認められています。



便潜血検査

2日間の便をとります。

便秘などでやむを得ず1日分のみの場合は、検査の精度が劣ります。

検査後

精密検査不要

翌年の検診（便潜血検査）を受けましょう

要精密検査

必ず医療機関で精密検査を受けましょう
再度、便潜血検査を行っても、適切ではありません
精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です

- ・ 全大腸内視鏡検査：下剤を服用し大腸の中をきれいにした後、内視鏡を挿入し、大腸内を観察します。がんの疑いがある場合は、組織を取る検査も同時に行います。
- ・ 内視鏡検査と大腸のX線検査の併用法：大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合は、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。

乳がん検診

乳がんの患者数は増加しており、9人に1人がかかると言われています。

乳がん検診（マンモグラフィ検査）により、死亡率が減少することが認められています。

マンモグラフィ検査

乳房専用のエックス線検査です

検査後

精密検査不要

2年後に検診を受けましょう

要精密検査

必ず医療機関で精密検査を受けてください

- ・ 超音波検査：乳房の上から超音波を当て、反射波を画像化して診断します。
- ・ 穿刺吸引細胞診：細い針を乳房の病変部に刺し、注射器で細胞を吸い取り、顕微鏡で細胞の状態を調べます。
- ・ 針生検・マンモトーム生検：太い針で腫瘍の一部を塊で採取し、組織の中にがん細胞があるかどうかやその状態を調べます。



子宮頸がん検診

子宮頸がんは近年、死亡率、罹患率ともに20～30代を中心に増加しています。

細胞診による子宮頸がん検診は、頸がんの死亡率、罹患率の減少効果が認められています。

細胞検査

子宮頸部の細胞を採取器具で少し採ります

検査後

精密検査不要

2年後に検診を受けましょう

要精密検査

必ず医療機関で精密検査を受けてください

- ・ コルポスコープ検査：コルポスコープという拡大鏡を使用して、子宮腔部の病変の有無を観察します。病変部があれば、組織を採取して病理検査を行います。
- ・ HPV検査：病変部の細胞の一部を使い、HPV-DNA検査を行います。



Q. がん検診で精密検査が必要と言われました。がんなのでしょうが…

A. 検診はがんの疑いのある人を探すのが目的ですので、がんであるとは限りません。医療機関で精密検査を必ず受けてください。

Q. 検診で異常なしと言われました。安心してよいですか。

A. どんな検査でも完璧ではありません。がんがあるのに診断できないこともあります。逆に、がんではないのに「がんがあるかもしれない」と言われる可能性もあります。継続して検診を受けることが大切です。

※精密検査の結果は、今後の適切な検診のために、精密検査を実施した機関、検診を行った機関、市が共有します。
(個人情報保護法の例外事項として認められています)